

しろね図書館だより

No.100

発行 新潟市立白根図書館

平成20年9月発行

(毎月第1木曜日発行)



しろね図書館だよりは
100号をむかえました。

いつもご愛読くださり、ありがとうございます。

しろね図書館だよりは、この平成20年9月号を

もちまして、100号をむかえることができました。

これを記念しまして、9月の展示架では、

「図書館員がおすすめするこの1冊」で紹介してきた歴代の本を一堂に集めました。

これまでの歩みを振り返る歴史的(100)100冊、この機会にぜひ手にお取りください。

しろね図書館だより100号記念特別企画



「しろね図書館」です。ここは、市民の皆さんの図書館です。
「もっと大きな新しい図書館が欲しい」という市民の声があり、
図書館が出来ると、たくさんの方々の、知恵や力、ご
協力をいただいて、オープンすることが出来ました。今迄に
変りなく、お力添えをいただいて、共に暮らしのなかでい
きすいた図書館になるようよろしくお願い致します。

【しろね図書館だより創刊号より】

8月の

来館者..... 22,490 人
貸出冊数..... 16,719 冊
予約件数..... 239 件

8月は、学校が夏休みのため
ブックバスはお休みしました。

予約ランキング

5ヶ月
待ち!

ただいま人気の本です。
しばらくお待ちください。

- 1位 ハリー・ポッターと死の秘宝 (21名)
- 2位 流星の絆 (12名)
- 3位 ホームレス中学生 (8名)
- 4位 夢をかなえるゾウ (5名)

平成12年6月、しろね図書館だよりは誕生しました。
当時は、前館長がひと文字ひと文字と文字を
そのすべてを肉筆で書いていたそうです。左に、いちばん
最初の図書館だよりに掲載されたメッセージを紹介しま
す。
いまはたいていは暮らしの中に思いついた、
使いやすい図書館になったでしょうか、
初心を忘れず、これからもがんばってまいりますので、
皆さんの応援をよろしくお願い致します。

もりのおくに2けんのおうちがありました。
あかい屋根にはわとりが、あおい屋根には
まだだれもすんでいません。
ところが、ある朝だれかがひっこしてきます。
となりのあたらしい住人は留守なのか、
にわとりは、なかなか会うことができません。
にわとりは、いろいろ考えた末に手紙をかきます。

ぼくは となりにすむものです。
よかったら あした うちに
あそびにきませんか。



作 きしら まりこ
絵 高島 純
(BL出版)

9月の読書会



夢を追求している時は、
心は決して傷つかない。

パウロ・コエーリョ著 (地湧社ほか)

アルケミスト

夢を旅した少年

子どもたちといっしょに

おとなりさん

さて、そのおとなりさんは一体どうしたのでしょうか。もち
ろん、おとなりさんの方もあいさつに行っていました。でも、
会えなかったようです。さっそく、おとなりさんにはわとり
に返事を書きます。こうして、やっと会うことができます。

どんなおとなりさんなのでしょう。どうしてこんなにすれ違っていたのかは、読んでか
らの楽しみです。なかなか会えない人に手紙を書いて気持ちを伝えたりする事はいい
ものです。届いたかな、読んでくれたかな、わくわくして楽しい事だと思います。
読み終わると、すぐ隣にいるおとなりさん(お子さん)に手紙やイラストを書きたくな
ります。さっと素敵なお子さんの絵や言葉に出合うかもしれません。
どうぞ、お子さんと一緒に楽しんでください。

おとなりさん



9月21日(日) 14:00~

ルーム 2

少年は旅に出る。
羊飼いの暮らしを捨て、宝物を追いかけて。
海を越え砂漠を越え、目指すは遙か、エジプトのピラミッド。
襲い来る数多の困難さまざまな出会いと別れ。
旅の終わりに、少年が見たものの。
自分の道を見失いそうなときに思い出したい、
知恵と教訓がもりもりめられた一冊。

9月の行事

9月6日(土)

絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~

9月21日(日)

読書会(ル-42) 14:00~

9月10日(水)

あかちゃんのはじめてであうほん

9月25日(木)

雑誌リサイクル

9月13日(土)

おはなし会 10:00~
絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~

9月27日(土)

おはなし会 10:00~
絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~

9月20日(土)

絵本のじかん 14:10~
おはなし会 14:30~

9月のブックバス

コース	学校	停車時間	巡回日
月A	白根北中学校	13:10~13:40	-/ 9/22
	大通小学校	14:00~15:15	9/8 9/22
火A	大鷲小学校	児童限定	9/9 -/
	根岸小学校	児童限定	9/9 -/
水A	茨曾根小学校	10:10~10:35	9/10 9/24
	白井中学校	13:10~13:35	9/10 9/24
木A	白南中学校	13:10~13:50	9/11 9/25
	庄瀬小学校	15:10~15:40	9/11 9/25
月B	小林小学校	児童限定	9/1 -/ 9/29
	月湯中学校	13:05~13:45	-/ 9/17 9/29
火B	白根小学校	10:15~10:40	9/2 9/16 9/30
	味方小学校	13:10~13:50	9/2 9/16 9/30
木B	白井小学校	10:15~10:40	9/4 9/18
	新飯田小学校	12:55~13:35	9/4 9/18

図書館員がおすすめするこの1冊

「図書館が教えてくれた発想法」

高田高史 著 柏書房 (O15タ)



図書館では調べもの
お手伝いをするんだって。知ら
なかったなあ。図書館では資料
探しのお手伝いを「レファレン
スサービス」というそうです。

.....架空の図書館「あかね市立図書館」を舞台に

くり広げられる調べものストーリー.....

<主な登場人物>

- ・上田彩乃 (通称 彩乃ちゃん) 21歳
1枚のチラシをきっかけに、夏の臨時職員として図書館で働くことに。
調べ方のコツを教えていただこうと伊予さんに弟子入り。
- ・伊予高史 年齢不詳 (40歳位?)
あかね市立図書館司書 調べもの担当 彩乃ちゃんに調べ方を指南。

舞台は神奈川県の外にある、架空の「あかね市立図書館」。海に面した小さな街にある、家庭的な図書館です。この図書館を舞台に、図書館を使った調べものが物語風に楽しく描かれています。物語は、伊予さんが彩乃ちゃんに図書館での調べものをレクチャーする、という手法で進んでいきます。「納豆のおいしいかきまぜ方」や「イラン料理の作り方」など、いろいろな調べものにチャレンジします。

本書のタイトルにある「図書館」と「発想法」、お互いに結びつかないような言葉ですが、読んでいるうちに調べる時には「発想」が大切なんだと感じていただけるのではないかと思います。図書館の本に貼ってあるラベルに書いてある数字 (分類番号) のしくみから図書館を使いこなすコツまで、物語を楽しみながら学ぶことができます。著者は現役の図書館員。舞台は架空の図書館ですが、「どこかに実在しているのでは」と思ってしまうほど親しみやすい図書館の雰囲気伝わってきます。この1冊を読んで今秋は新たな図書館利用をしてみませんか?

「図書館のこと、もっと知りたい」という方は、もちろん、「図書館って何をしているのかな?」という方にぜひ手にとっていただきたい1冊です。

※しほね図書館でもレファレンスサービスを受付けています。

資料探しのお手伝いをいたしますので、どうぞお気軽に職員までお声がけください。

(坂井 智子)

第94回 読書会

平成20年8月17日(日)

午後2時

参加者 4名

からすがね

『烏金』

(光文社)

西條 奈加 著



【あらすじ】

因業な金貸し婆・お吟の所に押しかけて居候を始めた浅吉。職がないという浅吉は、金貸し業の手伝いを申し出た。浅吉は、新しい発想で次々と焦げ付いた借金を整理し、貧乏人たちを助けつつ利益を上げていく。しかし実は浅吉には秘密の目的があり、そのために素性を偽ってお吟に近づいたのだ。はたして浅吉の目的とは? そして浅吉の正体とは?

【参加者感想】

- ◆ 時代小説は好きではなくて、しかも借金の話のテーマだったので、読み続けるか迷ったが、読んでみると面白くて、思っていたよりも読んでみてためになった。
- ◆ 朝、カラスが鳴くころにその日の元手となるお金を貸し、夕方カラスが鳴く頃には返済してもらうという、烏金の借金のシステムがいいなあと思った。
- ◆ しかし、烏金は今の時代では成り立たないシステムだと思う。
- ◆ 浅吉が取り立てのために、返済の仕方をお金している人に教えて返済してもらうやり方がいいと思った。現代も多重債務で困っている人がたくさんいる。お金を貸しても、こんな風に助けてくれるやり方があったらいいのと思った。
- ◆ 貧乏人に商売の世話などをして、生活の面倒を見て、お金を貸すやり方が新鮮だと思っただけ、頭のいいやり方だと思う。
- ◆ 浅吉の商売を思いつく発想力がすごい。浅吉が最初の3件の取立てを片付ける所がすごく痛快だった。
- ◆ 難しい漢字が多くて、振り仮名がなかったら、読みづらかったと思ったが、読み始めると話に引き込まれて、一気に読めた。
- ◆ 出てきた算術が興味深かった。
- ◆ 算術が出てきたし、また装丁の絵がかわいらしくて、ティンズ向けの本なのかと思っただけ、一般向けなので、装丁で損しているように感じた。
- ◆ お金の使い方人生は左右されてしまうものだと感じた。浅吉の弟が財産である山を

- ◆ 全部売ってしまったが、これは財産よりも何よりも人の命の方が大切だと言いたかったのだと思う。
- ◆ お金の貸し方が現代にも通じるやり方で、今の世の中と同じだと感じた。お金の仕組みが分からないと、困ることが多いし、学校でもお金についての教育をすべきだと思った。
- ◆ 浅吉はお吟に何かの仕返しをするつもりで近づいてきたのかと思ったら、最後に孫だったと知って驚いた。お金も何のために必要だったのか最後に分かって、納得した。
- ◆ 要所、要所にいい人が出て来て、助けてくれて、人情味にあふれていた。最後のお役人も粋な計らいをしてくれてすごくよかった。
- ◆ 面白い話なので、ドラマになったらすごくいいと思うし、見てみたい。
- ◆ 武家は見栄っ張りなんだなと思った。
- ◆ 武家の一家が浮浪者のような子もたちの世話を本気でしてくれた所に感動した。

次回の読書会は

9月21日(日) 午後2時から

『アルケミスト』(地湧社)

パウル・コエリヨ 著

読書会は、参加者が同じ本を読んでお互いに感じたこと、思ったことを自由に話し合う会です。本は、図書館カウンターで貸出しています。どなたでもお気軽にご参加ください。

(斉藤久美子)